

大人の知的好奇心

2026 年度 古川美術館 連続文化講座

作家で綴る
**伝統工芸の
魅力**

協力 日本工芸会 東海支部

定員：22名 参加費：各回 1,000円

公益財団法人 古川美術館 分館 爲三郎記念館
〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地 TEL 052(763)1991



作家
で綴る

伝統工芸の 魅力

2026年9月に開催予定の日本伝統工芸展に向け、日本伝統工芸東海支部の先生方による連続文化講座を開催します。工芸をもっと身近に！工芸の魅力をもっと知りたい！という方必見です。大人の知的好奇心を刺激する文化講座。作家リレー形式で開催します。



木芯桐塑布紙貼「洛北の朝」

第1回 阪上展子 《桐塑人形との出会い》

4月22日(水) 13:30～15:00

桐塑人形は繊細な手仕事と細やかな仕立て、そして豊かな表現力が魅力です。阪上展子は海や雪山などの雄大な自然、それと共に生きる人々の生き生きとした姿を表現しています。人形作家が伝える人形の魅力と鑑賞方法。文化講座初となる分野に迫ります。



彫塑人形で重要無形文化財の市橋とし子の作品を見て心に強く響いたのをきっかけに人形制作の道へ。2006年東海伝統工芸での初入選を果し、以後数多くの賞を受賞。



こもれび

第2回 小林佐智子 《風通織の魅力》

5月28日(木) 13:30～15:00

風通織とは織物の表裏にそれぞれ別の色糸を用い、二重組織となって表裏の文様が反対の配色になる織物のこと。二重組織の中を風が通るという意味から風通と名付けられました。伝統的な織に現代的な感覚を掛け合わせる小林佐智子の織の世界を深掘します。



1946年、愛知県半田市生まれ。染織技法の風通織に魅せられて、織り方をはじめ、起源や歴史を研究する。2021年日本伝統工芸展 総裁賞受賞。



色絵流加彩片身替わり鉢

第3回 梅本孝征 《三彩の魅力ー流加彩による現代的表現ー》

6月13日(土) 13:30～15:00

色絵流加彩は、低下度で焼く上絵付を更に高い温度で焼くことで上絵具を器面に流す技法です。確かな技術と器の形に合わせた模様展開する梅本孝征の混じりけのない美しい発色の秘密に迫ります。



1962年生まれ。1986年東京藝術大学工芸科卒業。1988年東京藝術大学大学院陶芸専攻修了。1990年重要無形文化財保持者・藤本能道に師事。現在、愛知県立芸術大学教授



緑釉壺

第4回 鈴木 徹 《日本伝統工芸展と私》

7月2日(木) 13:30～15:00

「亜流とならない、いままでになかったもの。それでいて力強く、存在感のある作品」を追求する鈴木徹。織部焼に端を露しながらも伝統の踏襲だけにはとどまらない、鮮やかな緑釉とその色彩を引き立てる理知的な造形。陶芸家・鈴木徹の世界を紹介。



1964年 人間国宝鈴木蔵の長男として生まれる。2016年 日本伝統工芸展 NHK 会長賞受賞。2024年多治見市無形文化財「織部」指定。現在、日本工芸会東海支部幹事長。



藍色志野壺

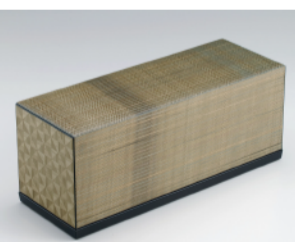
第5回 酒井 博司 《私の陶芸》

8月21日(金) 13:30～15:00

酒井博司は、伝統的な志野焼に現代的な解釈を加え、独自の藍色志野を追求する作家です。伝統技法を受け継ぎながらも、高い技術力と独創的な発想がその作品に宿ります。国内外から注目を集める酒井の陶芸の世界と、藍色志野の誕生秘話に迫ります。



1960年岐阜県生まれ。1983年名古屋工業大学卒業。その後、多治見市陶磁器意匠研究所で知識を深め、1985年、瀬戸黒の人間国宝 加藤孝造に師事。



神代杉木画箱

第6回 馬淵弘幸 《神代杉木画箱～木目に想いを寄せて～》

9月12日(土) 13:30～15:00

地中に千年以上埋もれた杉・神代杉。時間と地球の自然がもたらす神秘的な木と対話をしながら制作を展開する馬淵弘幸は、究極ともいえる細かな木画が魅力の作家です。神代杉の色味、柾目の間隔を周到に計算する馬淵の超絶技法の世界を紐解きます



1966年生まれ。2013年、岐阜市芸術文化奨励賞受賞 2026年、岐阜県伝統文化継承功労者無形文化財・工芸技術(木工芸)受賞。

要申込み
お電話にて
お申し込みください

定員：22名 参加費：各回 1,000円
TEL 052(763)1991

別途、古川美術館・分館為三郎記念館の両館共通券が必要となります。

古川美術館パスポート会員を募集しています
一年間何度でも古川美術館と為三郎記念館にご入館いただけます。